

『母さんに逢いたくて、
僕は29番線に乗ってきたのさ。』

ニコラス・ローグ監督作品

トラック29

TRACK 29

出演：テレサ・ラッセル
ゲイリー・オールドマン
脚本：デニス・ボッター
音楽：スタンリー・マイヤーズ
撮影：アレックス・トムソン
製作：リック・マッカラム
製作総指揮：ジョージ・ハリソン
デニス・オブライアン
ハンドメイド・フィルムズ



1987年/イギリス映画/カラー
ビスタサイズ/1時間30分
配給＝ 株式会社 リネセゾフ

極彩色の幻想、ネオスリラーの話題作!!

イントロダクション

イギリスの脚本家デニス・ポッターと監督ニコラス・ローグの完璧なコンビがすばらしい作品を生んだ。“トラック29”は、退屈な医師との間に子供のいない結婚生活を嘆くノース・カロライナに住む主婦が、踏んでしまった地雷である。この地雷は彼女に大きなカタルシスをもたらす。

脚本家D・ポッターの描く狂気はセラピーであり、つまり一種の転化された精神的(類似)療法であり、莫大な幻想がより小さな問題を解決するようになるということだ。彼はイギリスで最も有名で独創的な脚本家である。オックスフォードを卒業後、BBCに勤めると共にTHE NEW STATEMANに論説を寄稿していた。1981年、今はなきディリー・ヘラルド紙に入社し特集記事のライターをした後、テレビの批評欄を経てBBCの脚本を書く事になる。この20余年間に傑出した作品群を生み出した彼は、数々の賞を受けている。(British Academy Award、The Broadcasting Press Guild Prize、BAFTA賞、他)D・ポッターの語る“ノース・カロライナ”とは、エアロビクスとか退屈とかプールと云うものを示す決まり文句である。その常套文句の中の主婦としてテレサ・ラッセルは登場する。彼女は今まで女優としてバラエティに富んだ役作りをして色々の方面に名前を連ねてきた。「ジェラシー」ではアート・ガーファンクルの神経症の恋人、「マリリンとアインシュタイン」ではマリリン・モンロー、そしてボブ・ラフェルソンの「ブラック・ウィドウ」ではグラマラスでとても誘惑的な女を、と全く違ったキャラクターを演じてきた。けれども彼女は今まででこのリンダ・ヘンリー役が一番やりがいのある経験だったと語る。共演のゲイリー・オールドマンは、現在同世代のうちで最もエキサイティングな俳優であり、この映画ではリンダ・ヘンリーの長い間行方不明であった息子、あるいは夢の中の恋人でもあるという役柄。過去、公開された2

作品では実在し非業の死を遂げた二人の男、シド・ヴィシアス(「シド・アンド・ナンシー」)とジョー・オートン(「ブリック・アップ」)を演じた。前作品では後に残された人達、例えばシドの母親やジョーの妹に対して義理があったと云う。『今度は自分の好きなことができるよ。』と語った。映画の冒頭に現われるヒッチハイカーは変に厚かましく、観客はここで地球人のふりをした火星人を思い出すかもしれない。それは「地球に落ちてきた男」である。最もビジュアル的でエキサイティングな映画監督であるニコラス・ローグは、この作品でも見る者に魔術をかける。オディプス・トンネルを出入りし、フロイト側線を通過し、息もつかせず速く走り続ける幻觉を体験させるのである。N・ローグの映画監督デビューは1970年の「パフォーマンス・青春の罠」であるが、その後「美しき冒険旅行」「赤い影」「地球に落ちてきた男」「ジェラシー」と続いて発表してきた。優れたストーリーを的確に見る目を持つ彼は、常に独特のやり方で物語る。

あらすじ

リンダ・ヘンリーは、老人病院に勤める年上の温和な医師リンリー・ヘンリーと結婚しており、二人はノース・カロライナの郊外で一般普通の生活を送っていた。彼女は子供がほしくてたまらないが、夫は妻を無視して鉄道模型にとりつかれ夢中なあまり、寝室を2つ、風呂場を1つ打ちぬき、2階の廊下まで独占していた。風変りなイギリスの若者マーティンがヒッチハイクでこの小さな町にやって来

る。彼はトラックの運転手に赤ん坊の頃に養子に出した母親を捜しているのだと語る。偶然、町の食堂でリンダとその友人アラランダは彼に出会う。二人は彼の風変りで軽薄な態度がチャミングだと感じたが、突然リンダは昔の苦い思い出の男に似ていることに気づきショックを受ける。翌朝、ヒステリー状態のリンダは夫にプールで溺れてやると脅すが、彼は妻の芝居を無視して出勤してゆく。自殺をしようと言っても相手にされなかった彼女はイライラするが、マーティンの突然の訪門で気嫌が直ってゆく。彼は巧みに取り入り、彼女を脅かしたりなだめたりしながら母親の代わりになってくれと訴える。その気になった二人は“ママ”と“いたずらっ子”を楽しむ。浴びるように酒を飲んでマーティンは客室の鉄道模型を壊しはじめる。その頃、ヘンリーは病院から解雇を言い渡され、彼の無能さと看護婦との個人的関係を指摘される。その夜、ヘンリーは鉄道模型のセミナーで情熱的な雄弁をふるい、嵐のような喝采の中「チャタヌガ・チュー・チュー」の演奏で会場は合唱となる。酔って眠ってしまったリンダが目覚めると、そこには自分一人しかいなかった。さらに、恐しく不思議なことが起こり始めていた。

トラック29 TRACK 29

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・ゼノン、チケットぴあ、ゼノン系各劇場他でお求め下さい。

特別鑑賞券1,300円
(当日一般1,600円・学生1,300円)

銀座テアトル西友

銀座線京橋駅下車(旧テアトル東京跡) ☎03(535)6000

連日	1:15	3:10	5:05	7:00	Ⓢの夜8:55
----	------	------	------	------	---------